

3. 日本産セダカヤセバチ科（膜翅目）の分類

農業環境技術研究所 環境生物部 昆虫管理科

要 約

從來日本から 1 属 2 種しか記録のないセダカヤセバチ科 (Aulacidae) について分類学的研究を進め、未記載種 4 種を含む 5 種を追加した。この結果、日本における本科は 2 属 7 種となり(表 1)，同定が可能になった。

背景・目的

寄生蜂は天敵として害虫の個体数抑制に重要な役割を果たしているが、分類学的研究は著しく遅れており、日本にも多くの未記載種や未記録種が存在する。そこで、日本の寄生蜂相解明の一環として、カミキリムシ科やクビナガキバチ科など木材穿孔性昆虫の寄生蜂、セダカヤセバチ科の日本における種とその分布を明らかにしようとした。

内容及び特徴

- (1) 日本各地から収集された標本を検討し、頭部(図 1)，前・中胸背板、翅脈相、雄交尾器の把握器などの形態形質に基づいて、本科の分類を完成させた。特に後翅の翅脈の名称体系が確定していなかったので、図 2 のような名称体系を提案した。
- (2) 未記載種 4 種のうち、小笠原諸島で採集されたオガサワラセダカヤセバチ (*Pristaulacus boninensis*) を新種として記載した。
- (3) 各々の種の分布を明かにし、キンケセダカヤセバチ (*Pristaulacus rufipilosus*) が本州に、マダラセダカヤセバチ (*Pristaulacus comptipennis*) が沖縄本島と西表島に分布していることを新たに記録した。
- (4) 寄主について調査し、マダラセダカヤセバチがホソガタヒメカミキリに、オガサワラセダカヤセバチがフトガタヒメカミキリに寄生することを新たに記録した。

活用面と留意点

- (1) 日本における本科の同定に利用できる。
- (2) 今後は各々の種について正確な寄主を解明する必要がある。

キーワード

膜翅目、セダカヤセバチ科、寄生蜂、分類、*Aulacus*, *Pristaulacus*

(小西和彦)

表1 日本産セダカヤセバチ科の分布及び寄主

種名	分布	寄主
<i>Aulacus</i> sp.	本州	不明
<i>Pristaulacus</i> sp. 1	伊豆半島, 御藏島, 八丈島, 筑前沖島, 屋久島, 奄美大島	不明
<i>P.</i> sp. 2	奄美大島, 沖縄本島	不明
<i>P. intermedius</i> Uchida, 1934	北海道, 本州, 四国, 九州, 隠岐, 対馬, 中国東北部	エグリトラカミキリ
<i>P. rufipilosus</i> Uchida, 1934	北海道, 本州, 四国	不明
<i>P. comptipennis</i> Enderlein, 1912	沖縄本島, 西表島, 台湾	ホソガタヒメカミキリ
<i>P. boninensis</i> Konishi, 1989	小笠原諸島	フトガタヒメカミキリ

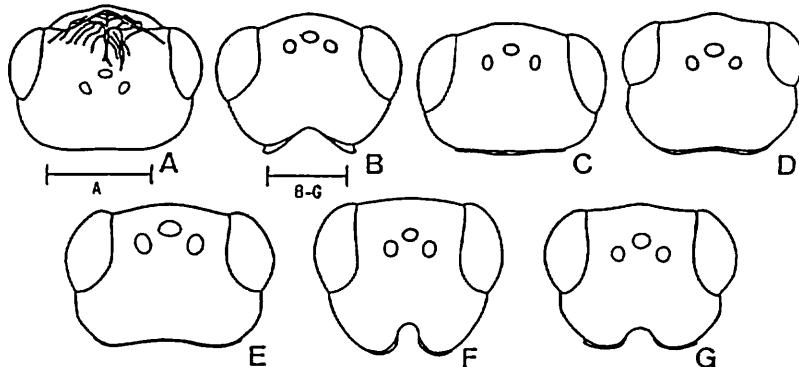


図1. 頭部背面図 A, *Aulacus* sp. ; B, *Pristaulacus* sp. 1 ; C, *P.* sp. 2 ; D, *P. intermedius* Uchida ; E, *P. rufipilosus* Uchida ; F, *P. comptipennis* Enderlein ; G, *P. boninensis* Konishi. スケール：1.0 mm.

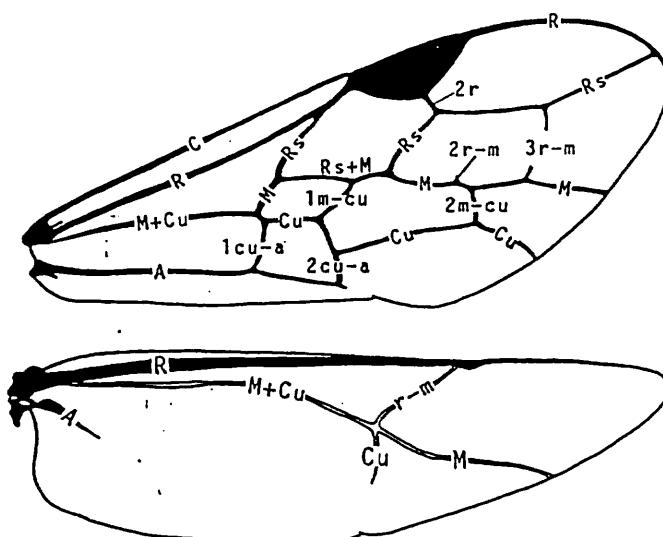


図2. セダカヤセバチ科翅脈相の名称体系